

# 攝津名所圖會

武庫郡  
菟原郡

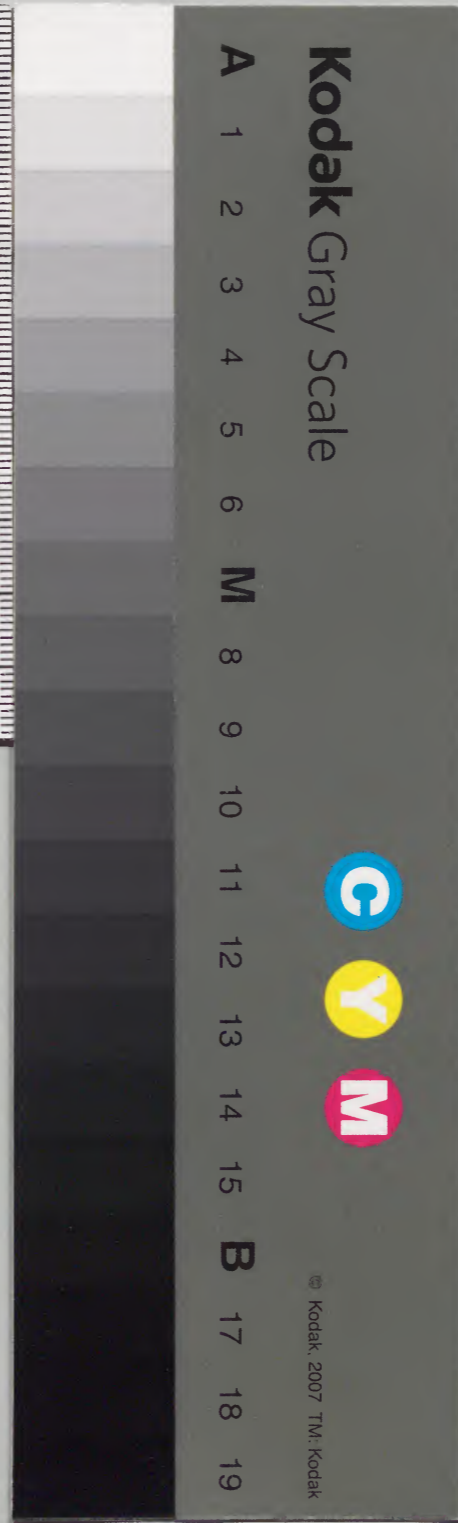
|     |       |      |  |
|-----|-------|------|--|
|     |       | 和書門類 |  |
|     | 二九〇六號 |      |  |
|     | 一一九函  |      |  |
| 一一册 | 一一架   |      |  |

|      |       |    |  |
|------|-------|----|--|
| 庫文閣内 |       | 和書 |  |
|      | 二九〇六號 |    |  |
|      | 一一二册  |    |  |
| 二二七函 | 一一架   |    |  |

|      |          |       |  |
|------|----------|-------|--|
| 内閣文庫 |          |       |  |
| 番號   | 和        | 29006 |  |
| 冊數   | 12 ( 9 ) |       |  |
| 函號   | 267      | 65    |  |

内閣文庫

九二ナニ



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり





攝津名所圖會

武庫郡

内一〇八三一號

武庫山

一名

柏李葉嶽

武庫川

甲山神咒寺

護摩堂

大師堂

鷲林寺

鎮守倉財天

山須社

見佐神祠

鹽尾寺

名次丘

名次神社

平林寺

穴塚

薦家

小林神祠

大塚

武庫の宮

渡部細古居

奥之池

伊和志豆神社

園左神社

廣田神社

二人塚

山伏塚

瓦林古城

大嶋神祠

住吉塚

天臺塚

武庫海

武庫浦

寶集院

武庫橋

武庫渡

琴浦神祠

年古入江

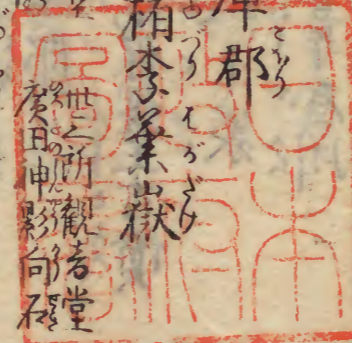
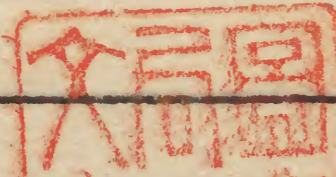
押照宮

等覺寺

鳴尾里

小松寄

鳴尾一松





名壽宮尾西瓜  
鳴尾泊  
南之橋  
御老澳  
松園古城  
枝川  
昌林寺  
源頼光墳  
明里池

西宮名壽  
六湛寺  
聖奈院  
積翠寺  
西宮驛

大園王西神社  
南宮  
大紀廣祠  
繪馬舎  
神樂殿  
末社之序

神明社  
百法丈祠  
愛宕祠  
荒神祠  
海法寺  
順心寺

圓満寺  
西蓮寺  
觀岩神祠  
平塚  
日下部浄方  
氏成賣女

越水戰場  
岩谷池  
平塚  
觀岩神祠  
越水古城  
越水清水

夙川  
牟古首  
日下部浄方  
氏成賣女

打出濱  
河保親王古墳  
金津丘  
草屋里  
天満宮  
業平古蹟  
芦屋驛

親王寺  
八十冢  
草屋里  
月若宅址

猿丸古墳  
草屋川  
漢人濱  
芦屋海士  
草屋灘  
保久良神社  
扁保曾墓  
住吉川

鷹尾古城  
公光塚  
湯本薬師  
潮見松  
芦屋浦

若宮祠  
鵜冢  
漢人濱  
芦屋浦  
草屋灘  
保久良神社  
扁保曾墓  
住吉川

奥龍燈  
森稲荷  
踊松  
石窟冢  
五百壽  
德井川  
十善寺  
八幡宮  
石佛三尊  
觀音堂

山路湯  
山路古城  
石窟冢  
五百壽  
名壽神石  
鬼冢  
祥龍廢寺  
敏馬浦  
摩耶山天上寺  
御山堂  
觀音堂

石窟  
雀松原  
名壽神石  
鬼冢  
祥龍廢寺  
敏馬浦  
摩耶山天上寺  
御山堂  
觀音堂



文庫



内一〇八三二號

下河辺維惠画

接津名所圖會

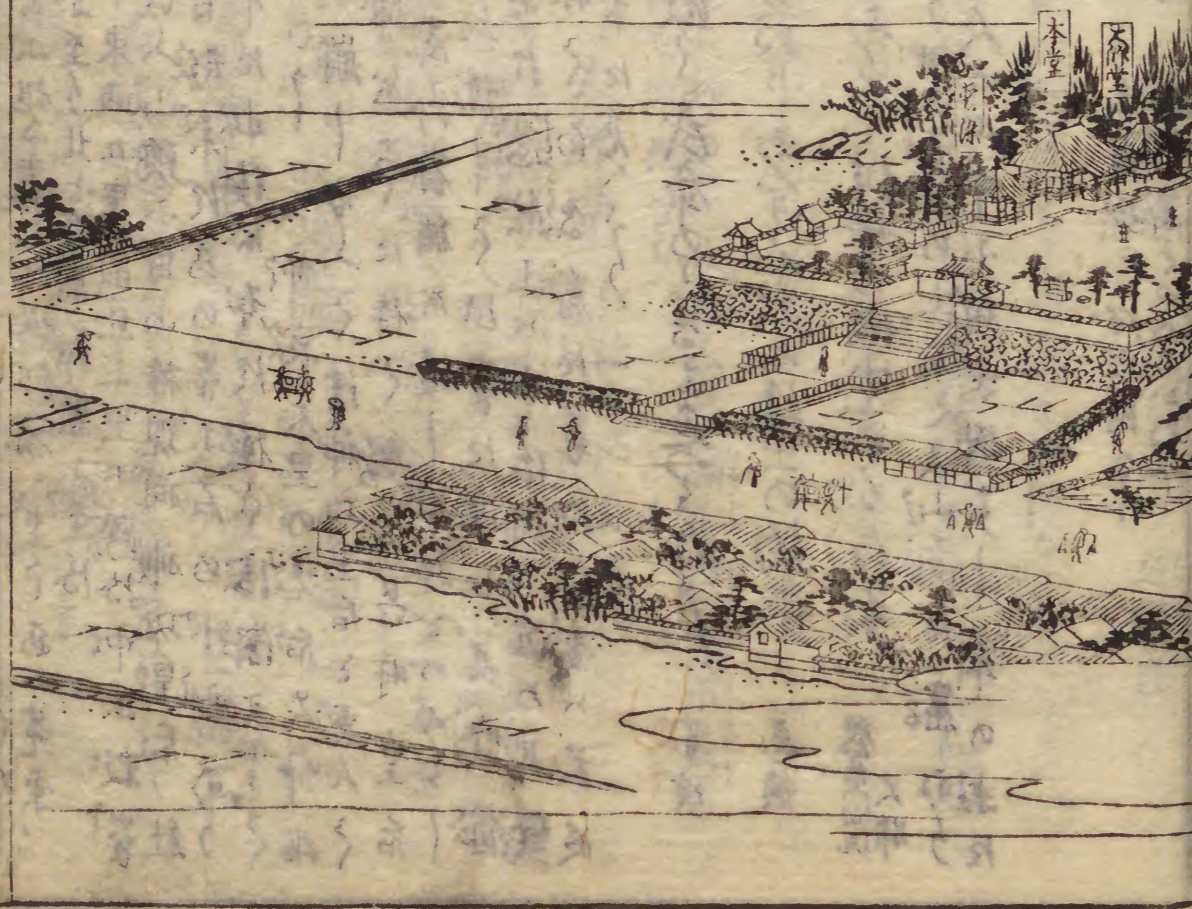
- 摩耶城 まゝのよのしろ
- 末友祠 すまともりのみ
- 畔家 はたけ
- 布引籠 のひのひの籠
- 慈内八幡 くひらちのやま
- 高林神祠 たかはやしのやしろ
- 天狗巖 てんぐいわ
- 法然松 ほうねんまつ
- 和理家 わりのり
- 砂山 すなやま
- 福井家 ふくい
- 王子祠 おうじ
- 河内國魂神社 かみのくにたまのじんじ
- 阿弥陀寺 あまたのてら
- 名考灘酒 なこうの灘酒
- 瀧山古城 たきやまのふるまち
- 旗家 はたけ
- 釋日慶古蹟 しやくにちけい
- 舟寺八幡 ふねのやしろ
- 天王家 てんのう
- 生田二宮 なまのくに
- 滝勝寺 たきかつ
- 熊内牡丹 くまのうら







西宮  
天財  
圓滿寺



林も  
寺に  
柳の  
池  
塵元





武庫郡

郡界小至り南に海濱に至り北に有馬郡界小至り西に荒原ノ

武庫山

武庫郡の西にあり東に五里南北に二里小橋の神功皇后ノ

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり

武庫

武庫の山の中にある山に水鏡の池あり



寺誌曰  
支當山をむく 神功皇后之韓公追討しゆひく後園家  
平安の守護神也く金の甕六剣其外武器を藏免  
そまゆゆく小地名を武庫と号し一山六甲山と稱し  
又當山の形の似たるをゆき甕山といふ 文武帝の御中  
初く役優婆塞け山小来つて苦りしゆひ奇財人の親向  
感見しと其尊教と化を鎮すとく一厥后 淳和帝の皇妃  
常ふ如意輪大悲の神咒を誦しゆくを甕岩ありて遂ふ大長  
五年二月十八日皇妃の官女二人小金吾校尉橘親守を召供し宮中  
を出ゆひをふけ山小入るし時小紫雲摩尼岩にたふびた婢娟と名  
英人出ゆひくけ山の盡場ありまふ志しゆりこれに廣田神の  
化現之ゆく高嶺小飛去り皇妃大歡喜しゆひ一字  
管の中其後空海傍都が崛法しと希灌頂壇小入金胎支那の  
奥方探り如意輪の像を化んてとく師素本をたつゆりて

山頭小大樹の櫻あり大師加持し皇妃の身量分訂て規り  
尊像を從皇妃小奉と當寺の本尊是之又け山小一鬼あり  
鹿乱神といふ此精舎小障界と云んて大師曰東の谷に  
大岩ありまきあきけ神をまをるを護とあんとくあに鎮  
祀ゆひそれより山河淨溢とありたるを今あれを福石といふ大長  
八年十月十八日皇后薙髪しゆひ如意尼と號し二人の官婦も  
同時小髪をあらし一如一如意と名をたるに尼俱小如意輪の咒を念  
らば唱ゆりて寺が神咒寺といひ又感應寺とも呼ぶ義和二年の  
春 淳和帝け山より幸ゆりて寺田辺里百町を寄附しゆひ  
七堂伽藍巍然とく僧坊子院若干あり同年二月廿日皇妃  
如意尼の忽ち方小向く如意輪の尊像小彫れ堂を合しと師齡  
世之方ありて遷化しゆひ安元亨釋書にんてり當山の繪詞傳へ  
仁和寺御内主画と土佐土佐守とを授けし壽永の荒廢せしゆり



源頼朝公再興の台命ありきなりけり  
系時の系存捨文あり頼朝旅舎の旧跡の當寺より二町南小田畠の  
字とあり頼朝公の當山の良の方二町あり報恩の爲ふとありに榮く  
法慈と修しつるとや成就坊の古蹟に梶原の宿坊に當りより南二町  
小ありと田圃の字とあり其より年累りて後當國伊丹のを乱に  
佛圖僧院のみか燬燼とあり其後御神咒寺の村中一一字に結く  
本寺の安堂よりなるの近年又再興しと甲山の半腹小建堂  
諸堂今のぬく敬然たり

新千載  
永福門院  
永福正意曆應二年秋の辰梶原國神咒寺と  
しと寺小籠に侍を記に讀てはつり

朽のある一本は松のかけとありて  
永福門院  
永福正意  
道意  
神社考云  
淳和帝四の妃入丹後國余佐郡の人と抄州武庫の山中に入つ

如意輪の法を修し空海法師ト云  
常小一の法を修し空海法師ト云  
相争ひ功験足るに空海法師の  
者ありとこれより  
宮とて長二年故御小還り浦若子の日仙宮より得る  
尊像の中  
藏むと

本尊十一面觀音  
弘法大師の作  
長八尺

伽藍廟基記云  
持の武庫郡小觀音の靈跡あり弘法大師の同創りて武庫の山麓に  
あり其山嶺峰ありと林木葱々として蒼翠松樹ありと小庵  
ありと  
直ふ香尼山に至り殿宇を禁んとして如意尼如意輪の岩上に  
觀音の像ありと安堂一室あり觀音の鹿野神の祠小設く伽藍





千載  
 舟を浮  
 汐浜をふ  
 見つては  
 辰小うそ  
 沖の  
 今玄法師



尼ヶ崎  
 舟の浦  
 出遠の  
 風系

維惠画



名次岳 山脈を連なり續く文徳實録曰

吾妹見ふの世をせし名次山南の松系川を志りん 高市連 黒人

名次神社 貞觀元年正月授正五位下

見佐神祠 中見佐の旧地あり 伊予志村の上方あり

鹽尾寺 眞言宗の傍あり

本尊十一面觀音 每葉正月十日演の御と觀結の會式と

塩尾湯 日新山下あり 松水涌出にされと汲て温湯中一浴

穴塚 薦塚 奥池 日村あり

大塚 麻塚村あり 又下大市村あり 土人云真師直師泰が家あり

平林寺 小林村あり 眞言宗の傍あり 大正年中

本尊十一面觀音 大師の化又釋迦佛と安んぬ心傍郊の

小林神祠 小林村平林寺の鎮あり 小林村後祠録ふ

二人塚 武庫村のあり 義之の塚 井掘儀掘と二人の古墳

伊和志豆神社 正徳五年位上と授く

園太神社 押照宮と云ふ

渡部綱古蹟 武庫村のあり 洛の經城門あり 決本を子ら

武庫の宮 蔵人村あり 日本紀曰 孝徳三年十二月

穴塚 薦塚 奥池 日村あり

大塚 麻塚村あり 又下大市村あり 土人云真師直師泰が家あり

平林寺 小林村あり 眞言宗の傍あり 大正年中

本尊十一面觀音 大師の化又釋迦佛と安んぬ心傍郊の

小林神祠 小林村平林寺の鎮あり 小林村後祠録ふ

二人塚 武庫村のあり 義之の塚 井掘儀掘と二人の古墳

伊和志豆神社 正徳五年位上と授く

園太神社 押照宮と云ふ

渡部綱古蹟 武庫村のあり 洛の經城門あり 決本を子ら

武庫の宮 蔵人村あり 日本紀曰 孝徳三年十二月

穴塚 薦塚 奥池 日村あり

大塚 麻塚村あり 又下大市村あり 土人云真師直師泰が家あり





上代の  
長日  
うけ  
山  
史邦



兜山神呪寺  
うとまじんじゆ



廣田神社

廣田分合

と船見れ

溪の南に

宮造り

あつたれ

なり

板の

白岩

菖菰

皇注

本社

本社立前

本堂

本社  
松七町  
本末



拾遺

御核し

あつたれ

なり

八百年代の

神のまふく

素戔伊衡





廣田神社

廣田莊小あり延喜式 神名帳曰名神大月以相掌  
例系七月七日神あり山月神宮と出して諸人に  
生土神あり系山に西宮とあり新帯とあり  
名考  
志々溪の砂の敷ふあり糸ともりて廣田の名を頼まん  
夫木  
人いひてをぬまし神垣や廣田の侯ふれりまろ名  
系神五座 住吉縣一 神切皇后より八幡宮と云  
日本紀云 神切皇后より八幡神 高皇產靈尊  
末社 祇園 春日 地神 稲荷 子安

神切皇后之船直指難波干時皇后之船廻於海中以不能進  
更還務古水門而卜之於是天照太神誨之曰我之荒魂不可近  
皇居當居御心廣田國初以山背根子之女葉山媛令祭之云云  
風土記曰  
皇后軍と發して之韓依依る時沛產の月小陳りる石瓜ふく  
腰裳小神む志産瓜せさるんたりと産遠小異國小入之御叙瓜  
振るふとみふ悉く長服に筑紫小瑞障しゆひ皇子と産るふ  
是譽田天皇あり持は國の北岩廣田郷に至りる今廣田明神

と獅とらふあれなり云云  
文德實錄曰  
攝津國廣田神授從五位下云云 二代實錄曰 貞觀元年正月廿七日  
奉授攝津國從二位勳八等廣田神正之位 同記曰 貞觀十年十二月  
十六日乙亥進攝津國正二位勳八等廣田神階特加從一位云云同奉  
國十二月十日己亥遣使於攝津國廣田生田神社奉幣云云  
東鑑曰  
建曆二年九月十七日庚申就關東御寄進石清水住吉廣田等  
御領訖社事社解令到來者不經宿可申沙汰之由被仰  
問注所云云

住吉家 下瓦林村小あり或曰 山伏家 円村小あり或曰  
舊圓圓師蓋とせ 圓應禪師蓋とせ  
瓦林古城 同乃瓦林村小あり瓦林累世あり居は廣安年中中た  
おしゆのやしり 大寺莊今北村小あり東大寺は西大寺の  
生土神と云

寶集院 東大寺村小あり天正年中茶山修持太丈再建  
大園秀吉公影像兼山法下像俱小佛殿小安に  
本尊存財天 秀吉公の 大臺塚 西大寺村小あり  
由縁不詳

廣田神社 廣田莊小あり延喜式 神名帳曰名神大月以相掌  
例系七月七日神あり山月神宮と出して諸人に  
生土神あり系山に西宮とあり新帯とあり  
名考  
志々溪の砂の敷ふあり糸ともりて廣田の名を頼まん  
夫木  
人いひてをぬまし神垣や廣田の侯ふれりまろ名  
系神五座 住吉縣一 神切皇后より八幡宮と云  
日本紀云 神切皇后より八幡神 高皇產靈尊  
末社 祇園 春日 地神 稲荷 子安

神切皇后之船直指難波干時皇后之船廻於海中以不能進  
更還務古水門而卜之於是天照太神誨之曰我之荒魂不可近  
皇居當居御心廣田國初以山背根子之女葉山媛令祭之云云  
風土記曰  
皇后軍と發して之韓依依る時沛產の月小陳りる石瓜ふく  
腰裳小神む志産瓜せさるんたりと産遠小異國小入之御叙瓜  
振るふとみふ悉く長服に筑紫小瑞障しゆひ皇子と産るふ  
是譽田天皇あり持は國の北岩廣田郷に至りる今廣田明神

と獅とらふあれなり云云  
文德實錄曰  
攝津國廣田神授從五位下云云 二代實錄曰 貞觀元年正月廿七日  
奉授攝津國從二位勳八等廣田神正之位 同記曰 貞觀十年十二月  
十六日乙亥進攝津國正二位勳八等廣田神階特加從一位云云同奉  
國十二月十日己亥遣使於攝津國廣田生田神社奉幣云云  
東鑑曰  
建曆二年九月十七日庚申就關東御寄進石清水住吉廣田等  
御領訖社事社解令到來者不經宿可申沙汰之由被仰  
問注所云云

住吉家 下瓦林村小あり或曰 山伏家 円村小あり或曰  
舊圓圓師蓋とせ 圓應禪師蓋とせ  
瓦林古城 同乃瓦林村小あり瓦林累世あり居は廣安年中中た  
おしゆのやしり 大寺莊今北村小あり東大寺は西大寺の  
生土神と云

寶集院 東大寺村小あり天正年中茶山修持太丈再建  
大園秀吉公影像兼山法下像俱小佛殿小安に  
本尊存財天 秀吉公の 大臺塚 西大寺村小あり  
由縁不詳



武庫海

武庫海 武庫郡荒原の海也

持統天皇二年丙申禁新漢獵於攝津國武庫海一子歩内云云

持統天皇二年秋八月置放生所之攝津國武庫海一千歩 紀州

昔野加州身野各二万項順佛化也云云

武庫海 武庫郡の浦也

武古の浦北の浦と云ふは武庫の浦也

武庫海 武庫郡の浦也

武庫浦

王業

夕附日つゝのみさたと云く舟の影をふくやむと乃浦風

入道若右政大臣

武古の浦北の浦と云ふは武庫の浦也

人九

旅りく秋去夜をむたにいとくを吹をむと乃浦風

信賢門院 堀川

武古の浦北の浦と云ふは武庫の浦也

武子内親王

牟古入江

今武庫郡荒原郡の内小新田と称する所也

武庫海 武庫郡の浦也

武庫海 武庫郡の浦也

未性法師

武庫海 武庫郡の浦也

頭朝

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實

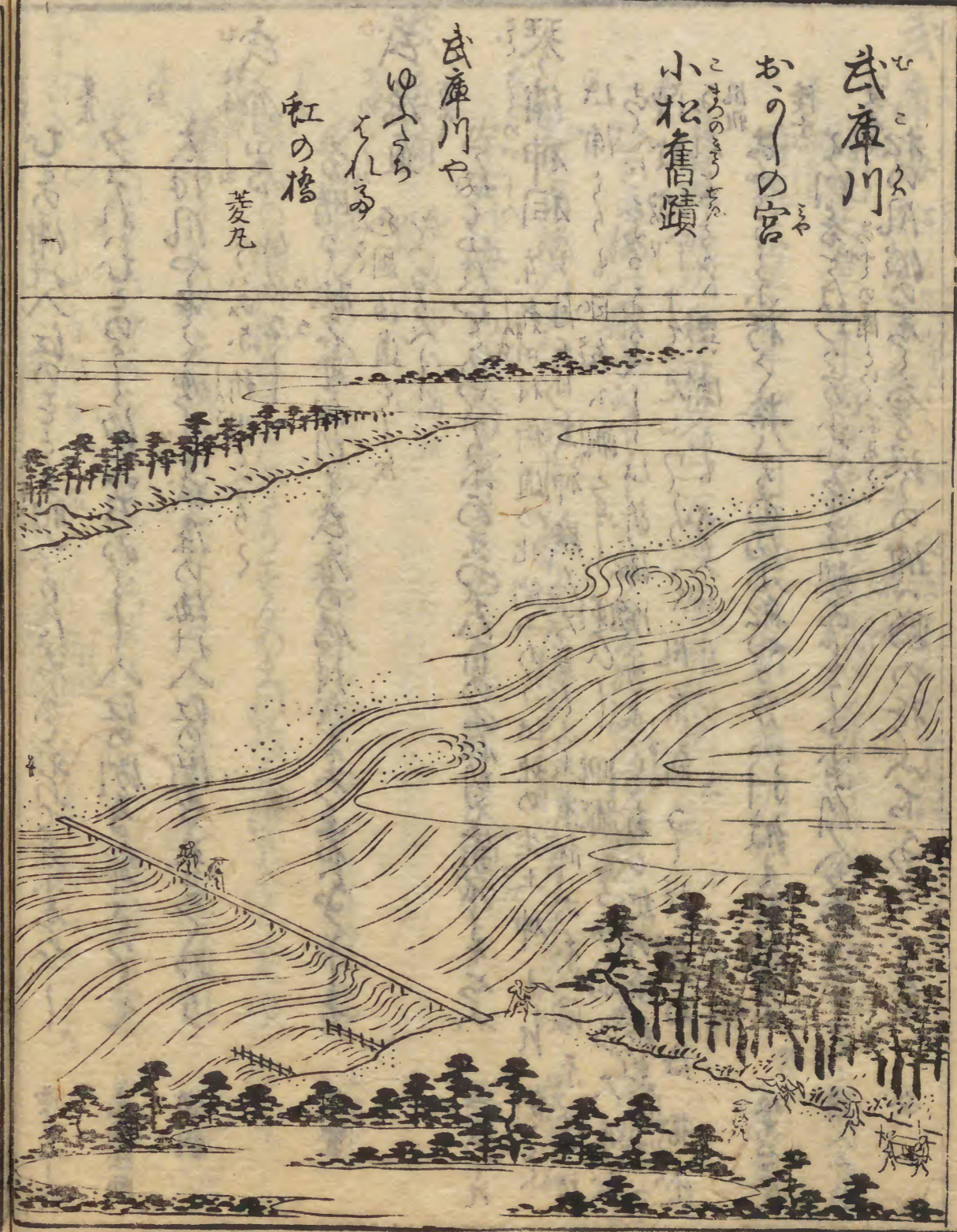
武庫海 武庫郡の浦也

信實

武庫海 武庫郡の浦也

信實





武庫川むくがわ

おりの宮おりのみや

小松舊蹟こまつのおふるあと

武庫川むくがわ

ゆいさち  
そらる

虹の橋

菱丸



圖の梅の花の見る本圖



桃溪



小松寄

小松村の侯邊なり。又本集少の近は梅は

あふ心やうう風をこぼるを小松の崎にふも鳴也

勝明法師

押照宮

小松村の内街道の南傍小松り。或曰、難波押照宮の旧蹟と

子の日して小松の勝をなすをなすふ子世のひけとう久

佛供家

土人小松に盛家といひ、大なる謬あり

等覺寺

小松村小あり、降土宗、悲山、観音院と号し、本尊ハ

鳴尾里

小松の西鳴尾村をいひ、古くあり

常よりも秋小なる尾の松風かて身あひむおを有る

鳴尾

今さうりなり

名産鳴尾丸

鳴尾村より多く出

津川

津川の志れぬ西風うか

西風

西風の志れぬ西風うか

出女

出女の口紅おしむ西風うか

鳴尾泊

鳴尾の浦にあり、人を波うけ夜うらむ日もさ

浦

浦さひく夜さあるおの松風さてふも鳴也

秋

秋をく鳴尾の浦にあり、人を波うけ夜うらむ日もさ

生駒山

生駒山をいふ、おの沖小ゆる目もやらぬ巖のあまを

松園古城

小松鳴尾の山あり、觀應二年將軍尊氏と高師直と

枝川

武庫川の支流、小松にあり

南松原

南松原、西宮の岡あり、今田蹟とす

あま

あま乙女、さうりうのねく、七郎の松原もゆる

あま

あま乙女、さうりうのねく、七郎の松原もゆる



南之橋 神戶川に架け石橋を向許  
昌林寺 は戸村小あり松原山と稱は津土宗

奉尊阿弥陀佛 後園小 幸素九塚 日新小  
源頼光墳 日新小 明星池 寺小あり傳説の頭成斬ては比みく

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
神功皇后按津國海濱の北岩廣田郷小到る今廣田明神と號す

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり

津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり  
津若濱 一名廣田濱ともいふ古海あり







大國主西神社

西宮市を野小あり西宮太神宮と稱を延喜式日  
整靴荒原郡小載と

拾五 色の海小風あつりせよめいのとを吾妻小のともをひを之布 慈徳

祭神 中央天照太神 左素戔嗚尊 右經兒尊

伊弉諾尊伊弉册尊為夫婦生輕兒雖已二歲脚猶不立故

載之於天般櫛棹船而順風放棄云云

生子水煙子此子者入葦船而流去云云

南宮 豐玉姫右大山咋命又孫津志云祭神事代主神故蹤當

今與荒越と稱と云云

久已貴命祠 門内の東 兎宮 門内の 宇賀神祠 此の中 末社之座

神樂殿 池の東 荒神祠 愛宕祠 繪馬舎 本社の神

神明社の傍小ありは神ハ西宮 奥經子祠 白あひ色 赤財天祠

腰懸石 西宮驛場の傍小あり 腰懸神ハ石腰あつり

夫當社を請小り七福神の其一あり諸人小財福成與之

社頭小御一表燈のかけん踏躑に縁と特よ居乃茶と

山陽道の驛路ありて往來の旅人も絶向なく市人の交易

あは神神を請とどとよまると尚所の生土神ありて毎茶

正月十日の居籠糸とく九日の夜あは神神廣田社一條を由

市中の民家あやしく戸を叩く是は藤原を齋く門松

逆小豆を内へ遠迎の親さやく知己の者多くあつて酒のみ

豆腐の早焼り羹あつて一人一表禁足してお静平神あは

はとむ早稲時のたより道隣の糸路あは社頭も賑しくあり

市中も門戸を叩たみあつて本社へ詣と社をふとつりくの



也賣方成ふ一放下所觀お其居あやありと那集と存す  
縮麻のぬいあはるは十日経子といふ六月十五日八月廿二日も  
例系あり押怪子二帛とい諾冊の尊支帰しゆい初小大照  
大日靈尊の生れい次小月讀尊の生れ其次小経兒を生ゆ(其)二男  
あはるやうく二帛居と我稱しる己小二茶も脚をせむは容像  
あはると大磐楹樟船小茶く風小噴せ放ち棄ゆり賤く先く  
夷の名も常るゆふ又容顔寛尔してゆふ(其)二茶も脚をせむは容像  
笑姿とも書し又能名あく(其)二茶も脚をせむは容像  
大己貴命の神子事代主命なりは神出雲國之穂寄小遊ゆい海  
俟小出く釣魚は樂しませゆいを恆兒神小比して神像と作る  
あはは大己貴事代主の二神は日本最初の地主神なりて福徳の神神と  
又笑姿の相殿小大黒天といふあり(其)二茶も脚をせむは容像  
あはく食厨の護神之西域諸寺の合厨小を安せるといふ事なり

大己貴異ありと我又羅山子の神社啓蒙あり今の世向小袋は負  
しゆる形と刻く恆兒神小双ふあはる大黒天神と字に記す  
あは大黒と大國と者顔相通は(其)二茶も脚をせむは容像  
其一之出社の鎮坐は年茶久遠ありと詳なりとていふも  
按むる(其)二茶も脚をせむは容像  
南宮と其次とに歌合小あり恆兒神の神事(其)二茶も脚をせむは容像  
古事紀舊事記等小あり(其)二茶も脚をせむは容像  
海濱寺 西宮北の方小あり巨鰲山と号は禪宗系神妙心寺小属は  
應永年中無因禪師の開基といふ人俗姓は平氏あり十七茶  
尾別(其)二茶も脚をせむは容像  
杜(其)二茶も脚をせむは容像  
弘(其)二茶も脚をせむは容像  
時(其)二茶も脚をせむは容像  
後(其)二茶も脚をせむは容像  
瑞(其)二茶も脚をせむは容像  
義(其)二茶も脚をせむは容像  
遊(其)二茶も脚をせむは容像



嘉慶八十有五葉門子全敷奉<sub>レ</sub>寺中に塔を具法<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>者み<sub>レ</sub>一方の導師あり

順心寺

西宮の北ふあり廣福山と号に義安年中法澄國師の南基<sub>レ</sub>

圓滿寺

西宮市座町ふあり古義真言宗醫王山茶師院と号に南基法道仙人武庫山警林寺とあり遷<sub>レ</sub>

本尊薬師佛 弘法大師の化身縁を大<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>警林寺ふあり文正七年乙未の時南<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>告<sub>レ</sub>愛深堂大師堂子安地蔵 執事天と安<sub>レ</sub>

西蓮寺

西宮ふあり永禄年中の善捨文あり

觀岩神祠

觀岩村ふあり系神巨岩あり倚疊觀の<sub>レ</sub>け地の生土神と<sub>レ</sub>

觀岩

照る日<sub>レ</sub>蒸<sub>レ</sub>暑<sub>レ</sub>觀<sub>レ</sub>岩

越水古城

越水村ふあり永正六年の冬細川高國の属將尾村政頼<sub>レ</sub>神<sub>レ</sub>兒<sub>レ</sub>寺<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>營<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>元<sub>レ</sub>長<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>兵<sub>レ</sub>庫<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>ひ

越水戰場

觀應二年將軍尊氏舍弟真義ととく<sub>レ</sub>に會<sub>レ</sub>戦<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>利<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>城<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>退<sub>レ</sub>く

岩谷池

越水村ふあり平塚 越水村ふあり

越水清水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

高國

高國澄ととく<sub>レ</sub>に會<sub>レ</sub>戦<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>利<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>城<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>退<sub>レ</sub>く

岩谷

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に

越水

越水村ふあり泉傳<sub>レ</sub>冷<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>庭<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>徹<sub>レ</sub>に





かやの  
吉ノ倉浦  
踊松

とら  
女波

男浪の  
柏子

開夕

松踊



仲良天皇の先后  
大津姫の行脚に出立  
一や、麿坂忍熊の  
二王子とて、其の  
三、神天皇小従りや  
四、神功皇后と討らん  
五、とくち小舟出ゆ  
六、より所の名ふゆ



維惠画





菟原郡

菟原郡

東ハ武庫の郡界小至ニ至ルハ部郡の郡界小至ニ至ル

打出濱

打出村の濱ニ至リ北ハ有馬の郡界ニ至ル

神功皇后

皇后腹の麩返思然の二王子見小於多々於小濱ノ一ノサヤノ後

阿保親王古墳

打出村上方ニ所許小あり側小八家六ツあり

素性謙退ヲ以テ天長ノ初メハ皇女ノ御方ニシテ皇太子ノ御母ハ葛井氏

金津丘

打出村の西端ハ一嶺の塚あり古名ハ土人口林云

萬牧ハ丘ノ中ニ蔵メ置ケリ里人飢饉ニ及ブ時ニハ

按ル所内堂の上ニ所ありハ親王ハ生原の行玉業玉の所父ニ

天満宮

金津丘の側小あり打出村の生土神ト云

阿保山親王寺

打出村の中小あり

本尊阿弥陀佛

總覽大師の他長尺八寸ハ地親王の殿舎ト云

八十塚

打出村の西岩平の山中小あり

葦原里

東葦原西葦原新田等の字あり

心より火のむくれ光はのんて芦やの里小飛虫の子

傍政 太政大臣

向やあゝの里れそや夜小のむく月のひかり

少内侍

ともむくさひとさよの月の園のりや里の秋の夕べ

家持

ぬきほを降そふれ葦刈の芦原の里れ八月の夜

定家

ほのくさのむくさよのあやせれ里小秋風そふく

定家

こつむけさむくさむくさむくさむくさむくさむくさ

眞内院 母後

浦風もつらむくさむくさむくさむくさむくさむくさ

後中絶言 推世

左原業平別荘古蹟

芦原里の中あり葦原川の傍小あり

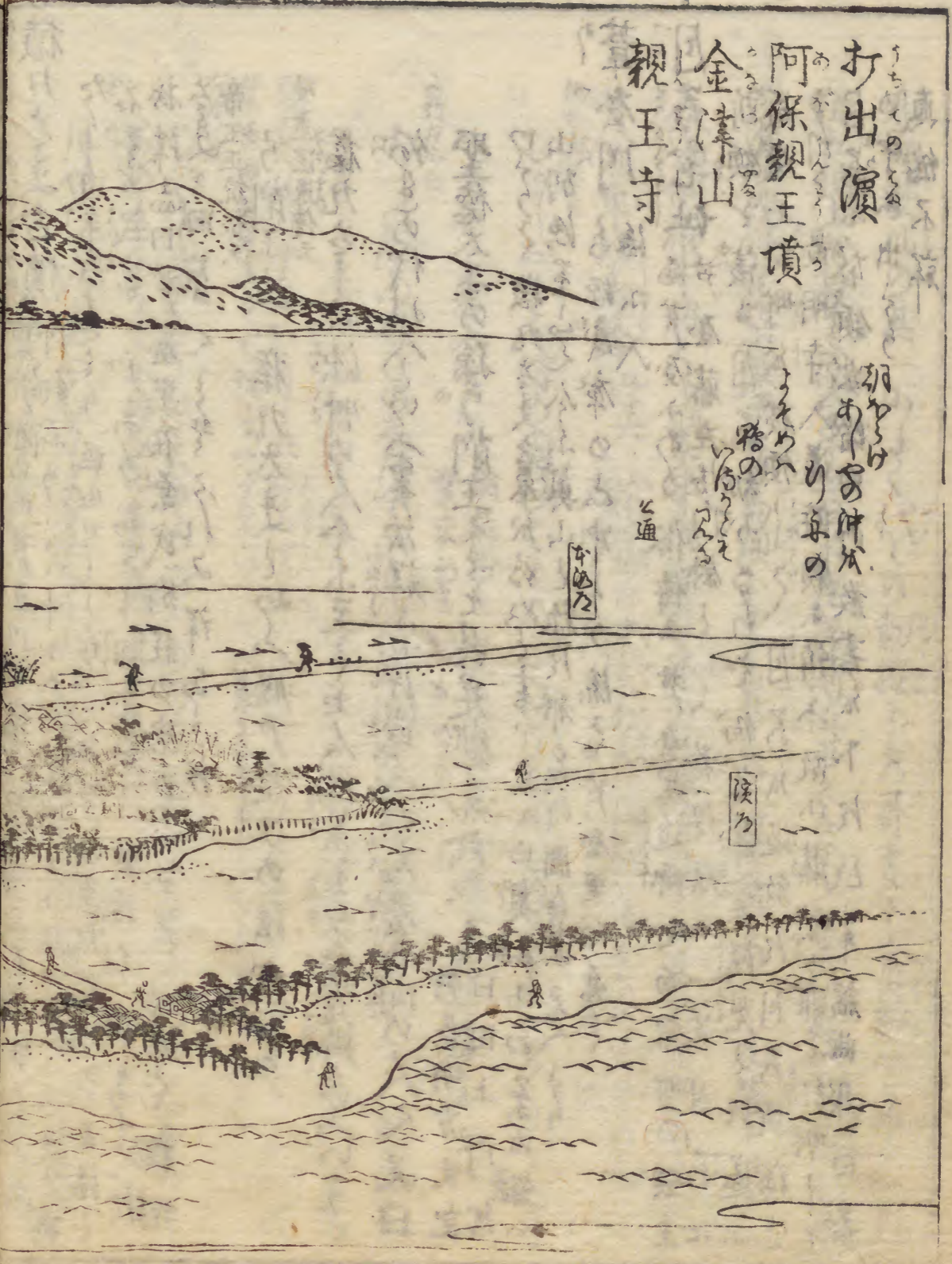
御傳業平親王ハ保親王の五の子正二位外中納言行田郷の妻ニ

母公々桓成帝の皇女伊登内親王ニハ躬長ハ體貌兩兼あり







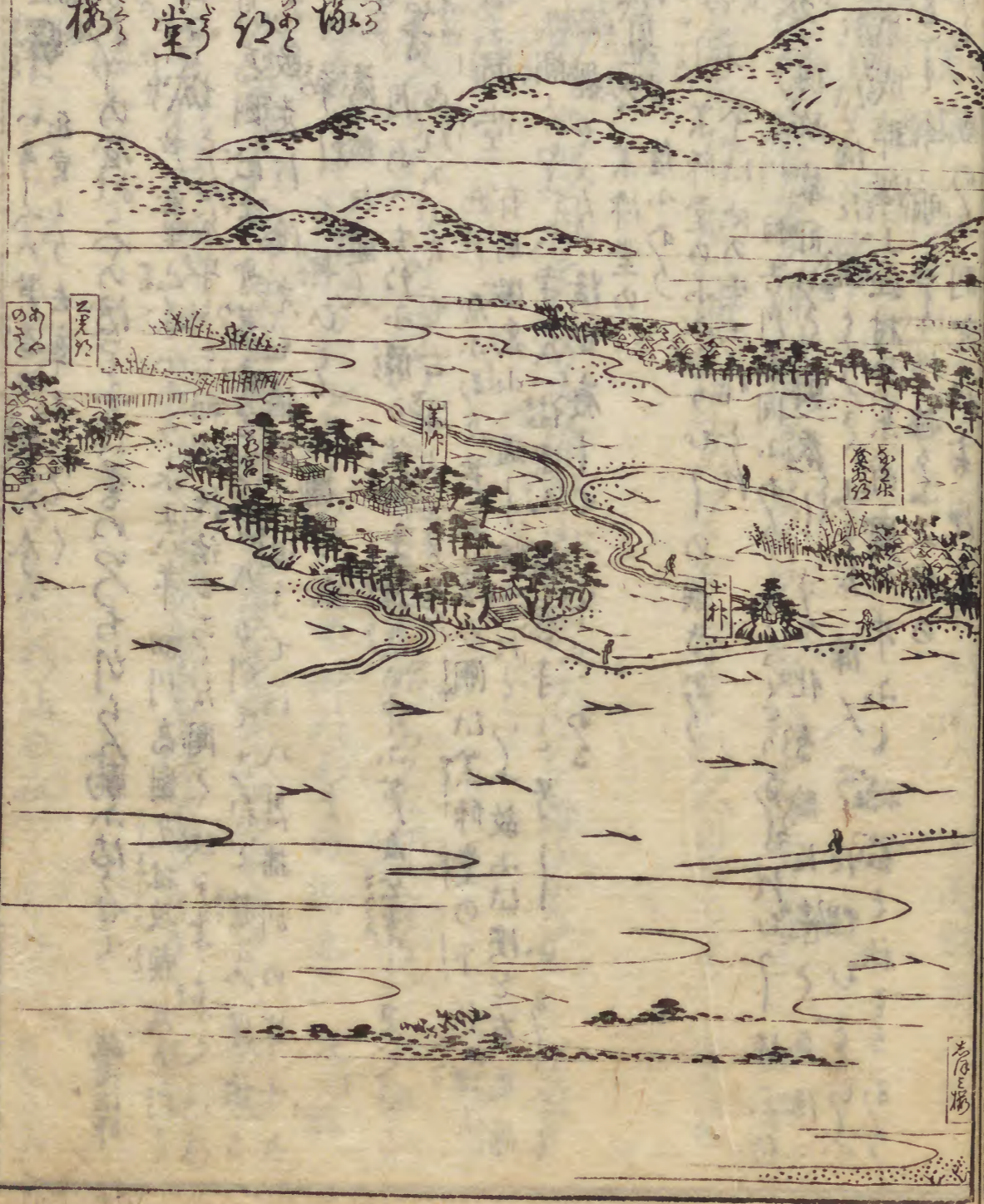


打出濱  
阿保親王墳  
金津山  
親王寺

河  
あやめ  
りまの  
橋の  
つらさ  
と通



潮見橋  
 茶師堂  
 公光坊  
 太史塚  
 猿丸  
 里



新設拾  
 龍波女の  
 うら志り  
 のりの里  
 五三位和紫





芦屋驛

いみじい芦屋里驛今今ハ

徳田法作

鷹尾古城

芦屋里にあり永正八年細川高國凡林政頼公の討つ

七月

高國は鷹尾に退き八月播磨の軍士

公光

公光は鷹尾に退き八月播磨の軍士

湯本

湯本にあり湯本寺あり湯本寺の

潮見

潮見にあり潮見寺あり潮見寺の

若宮

若宮にあり若宮堂あり若宮堂の

橋家

橋家にあり橋家堂あり橋家堂の

漢人

漢人にあり漢人堂あり漢人堂の

芦屋浦

芦屋浦にあり芦屋浦の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の

菅

菅にあり菅の



葦屋灘 北ノ七海宮多ク見所任吉小至りてあしと神饌といひ住吉  
多ク生田小至りては灘といふ浦口は海より船を寄る所不寛し  
日 何のやれあふる志はなれたあまはるかかひ方と云へぬ  
頃徳院 中製

のをけあふる海及びいほふを志す系神のいと高き事  
後善願院 中製

沖龍燈 龍神と祭るに時々足ゆり火の浦人云海井の奥縁  
森縮 森村小あり本莊九村の生土神と凡例系四月中卯日  
踊 森村小あり西嶺あり 郡曰天正九年鑄  
神幣 森村の輪船の神幣無水の時  
保久 北細村小あり延喜式出今年頭天王と林本莊  
山路湯 西勢本郷山路莊といふは辺みか海邊あり是を廟  
ひく 湯の古通ともいふ 一説少夫田郡中宮村

保久神社 九村の生土神と凡例系四月中卯日神あり  
山路湯 西勢本郷山路莊といふは辺みか海邊あり是を廟  
ひく 湯の古通ともいふ 一説少夫田郡中宮村

山路湯 西勢本郷山路莊といふは辺みか海邊あり是を廟  
ひく 湯の古通ともいふ 一説少夫田郡中宮村

山路湯 西勢本郷山路莊といふは辺みか海邊あり是を廟  
ひく 湯の古通ともいふ 一説少夫田郡中宮村

山路湯 西勢本郷山路莊といふは辺みか海邊あり是を廟  
ひく 湯の古通ともいふ 一説少夫田郡中宮村

詞苑

ふつおそれおの花も咲わらん我も何ゆゑそくふあてて 平忠盛

山路古城 田中村小あり観應年中

石窟家 三條村小あり

扁保曾墓 洞本村小あり墓畔小塚二十許あり或人曰左系業平  
遠依 遠依に墓あり扁保曾墓に人といふ其言小曰洞本の  
石窟 二箇所あり一洞本村小あり上ノ洞本村といふ一洞本村に  
あり 集りてあはれと云ふ

石窟 二箇所あり一洞本村小あり上ノ洞本村といふ一洞本村に  
あり 集りてあはれと云ふ

石窟 二箇所あり一洞本村小あり上ノ洞本村といふ一洞本村に  
あり 集りてあはれと云ふ

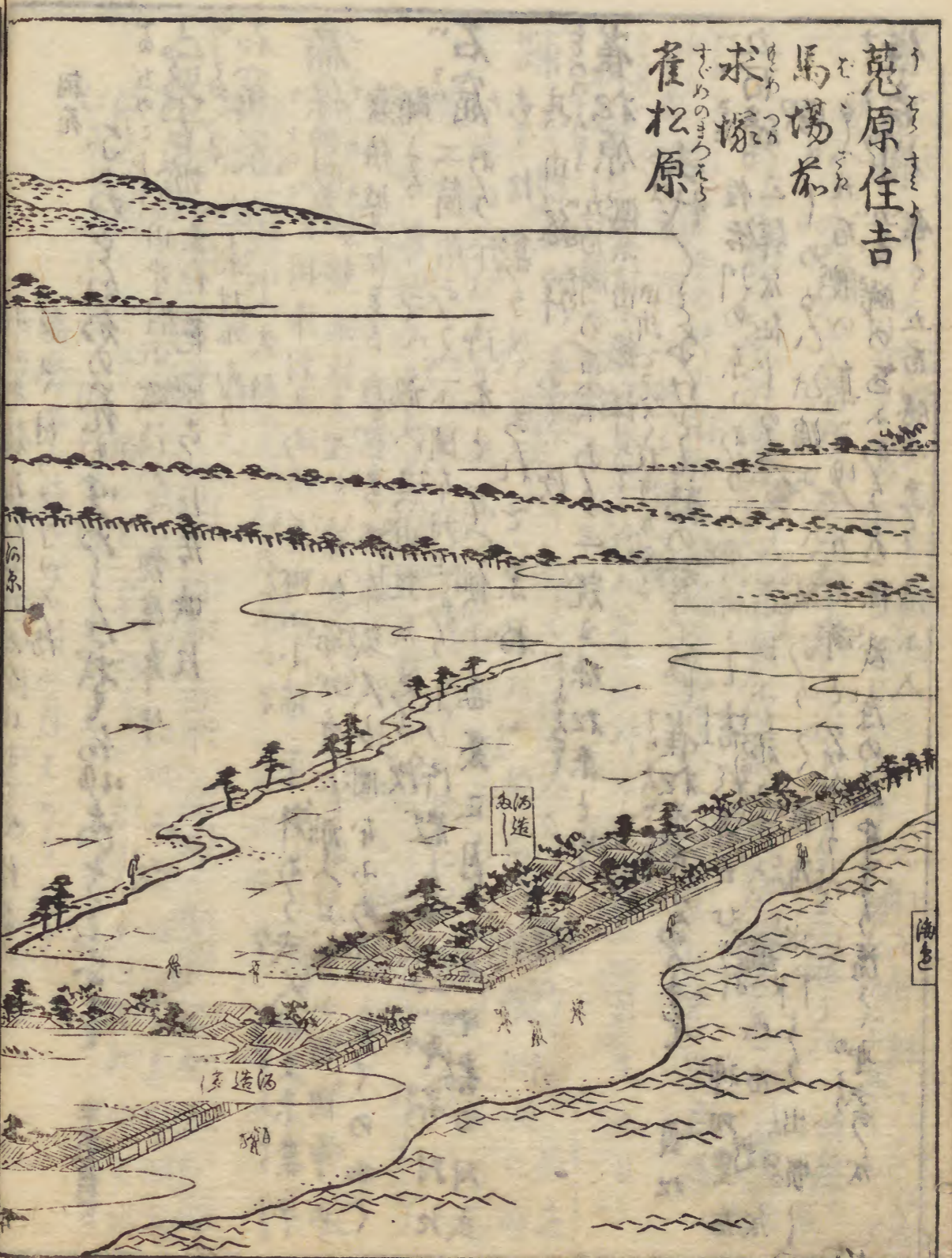
雀松原 五百崎の東小あり一説上原松系といふ

五百崎 佐吉川の東小あり又真崎とも清原茂云ひ神功皇后  
造りし所の集りてあはれと云ふ

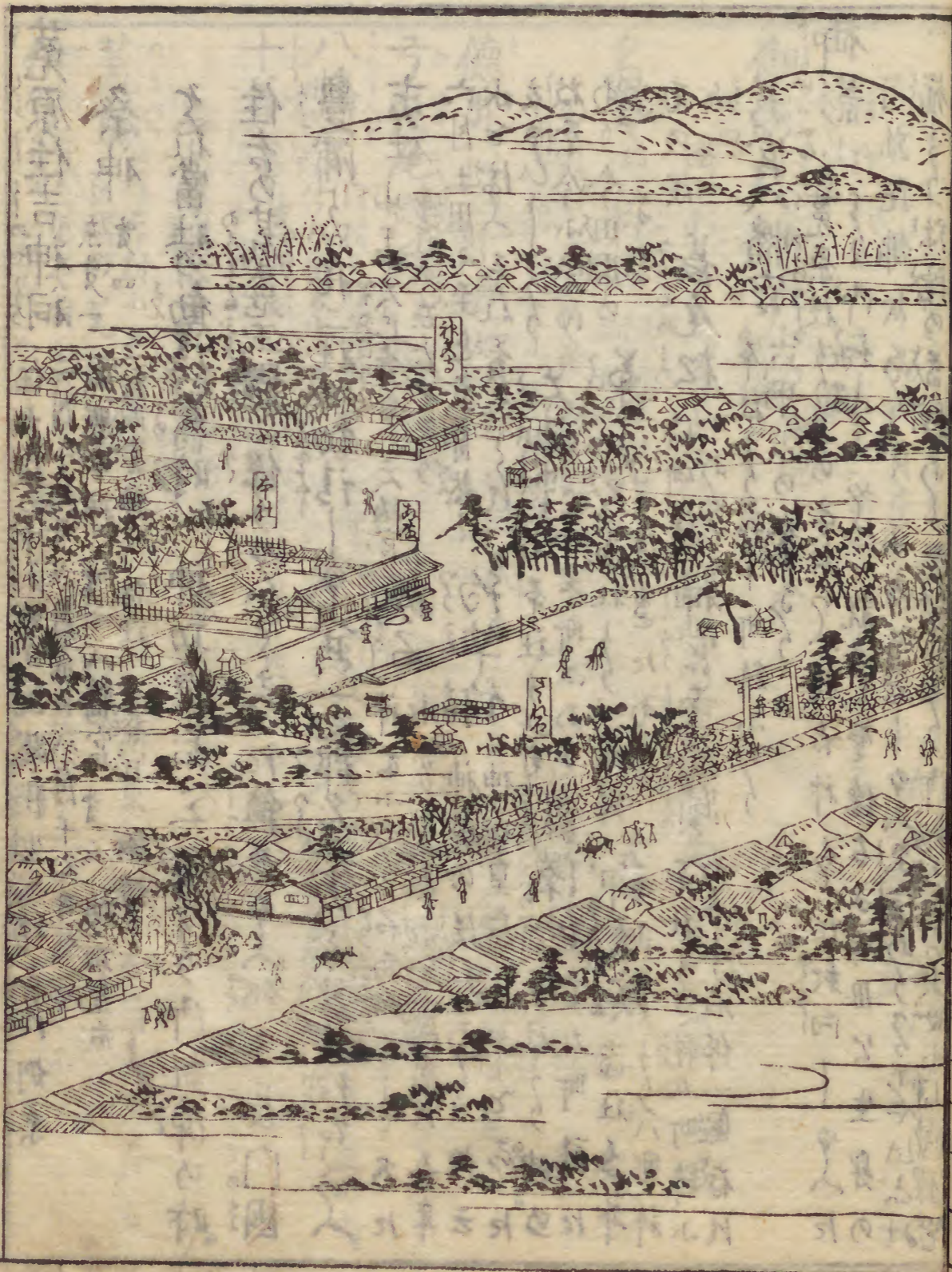
五百崎 佐吉川の東小あり又真崎とも清原茂云ひ神功皇后  
造りし所の集りてあはれと云ふ

住吉川 五百崎の西小ありあはれと云ふ









菟原  
住吉社



菟原住吉神祠

住吉村の中小の山路に生土社と云例系  
二月十二日 六月廿日 八月十二日

祭神

天照大神 八幡宮 神功皇后  
三箇男神 春日 諏訪

その當社の勸進の舊時

神功皇后三韓より御凱陣の時

住吉の菟原王體小係りゆひくさくに鎮光の都長門國

豊浦より廿二社と勸進し其一之郡名小より菟原住吉といふ

末社 山王 大己貴命 天徳宮 硬石 神志小あり石西田よりて方に

六月社用小至進を自然と 釣竿竹 神殿の後水釣竿と云

水と係りある者といふ 大海神祠 本社より南 法澤池 本社より

南の溪 長尾松 神宮寺旧蹟 御崎濱 本社より八町許

菟宮八幡宮 本社より北十町許小あり

御影山

菟原社より北の山なり一説より聖徳太子の母公生身の

阿彌陀佛の尊像ありと云方と念し中至信ありと云世小山路に

の古跡多し山城賀茂の御影山なる所を揚陽群凌ふも山城

御影社 又御影松とも云ふ

世小あり又帰るとんけの園に御影の松よ面うらうと耶 基傍

名産御影石 御出の山中より多く出御影村の石工に藍の礎石

徳井川 新明に至り海小入

弓弦尾 東明村あり菟原皇后異國と征し中入時諸神より

八幡宮 日村あり正の生土神 本内松 八幡宮の社若小あり大樹より株の如

十善寺 高野村あり街道より十町許小あり

本尊觀世音 靈佛あり

荒海 住吉村小を箇所御影村小二箇所東明村小を箇所あらんも

伊賀家 名義不詳 鬼家 藤原村小ありむらあふ

鬼家 藤原村小ありむらあふ

名義不詳

鬼家 藤原村小ありむらあふ

鬼家 藤原村小ありむらあふ

鬼家 藤原村小ありむらあふ

鬼家 藤原村小ありむらあふ





武庫山よりまき  
 石公切出しやむ村  
 よう諸國へまき入  
 牛車のちまきありて  
 日々運入奉りまき  
 石公切出しやむ村  
 樹むく系休の石公  
 みるおむり

石田友汀画



八幡宮 八幡村小あり此の生土神と伝上梁文曰  
 無仁蜜柑樹 同郡藤原村若林氏の家園小あり此は直式向を計  
 之とも中ふ仁ふ一足あるもの一掃原は地を荒然  
 古蔵守興定といふ者の居城と云へ海邊の山ありて要害  
 才一の城城と殺代とに居候しつる建武の城主討死  
 其後荒廢しける新村上原氏の末流若林氏年人佑勝園  
 有縁小尋くさくたあり城主の女子を人孤とありしと妻  
 家名相續にさる今も若林氏と數地の封境廣くしと  
 燈油と製して諸國に賣りけり

余波松 藤原村の十町計山中あり名義詳あり此松葉  
 教百葉松と云ふ松葉松と云ふ  
 風流の樹と土人を平松といふ

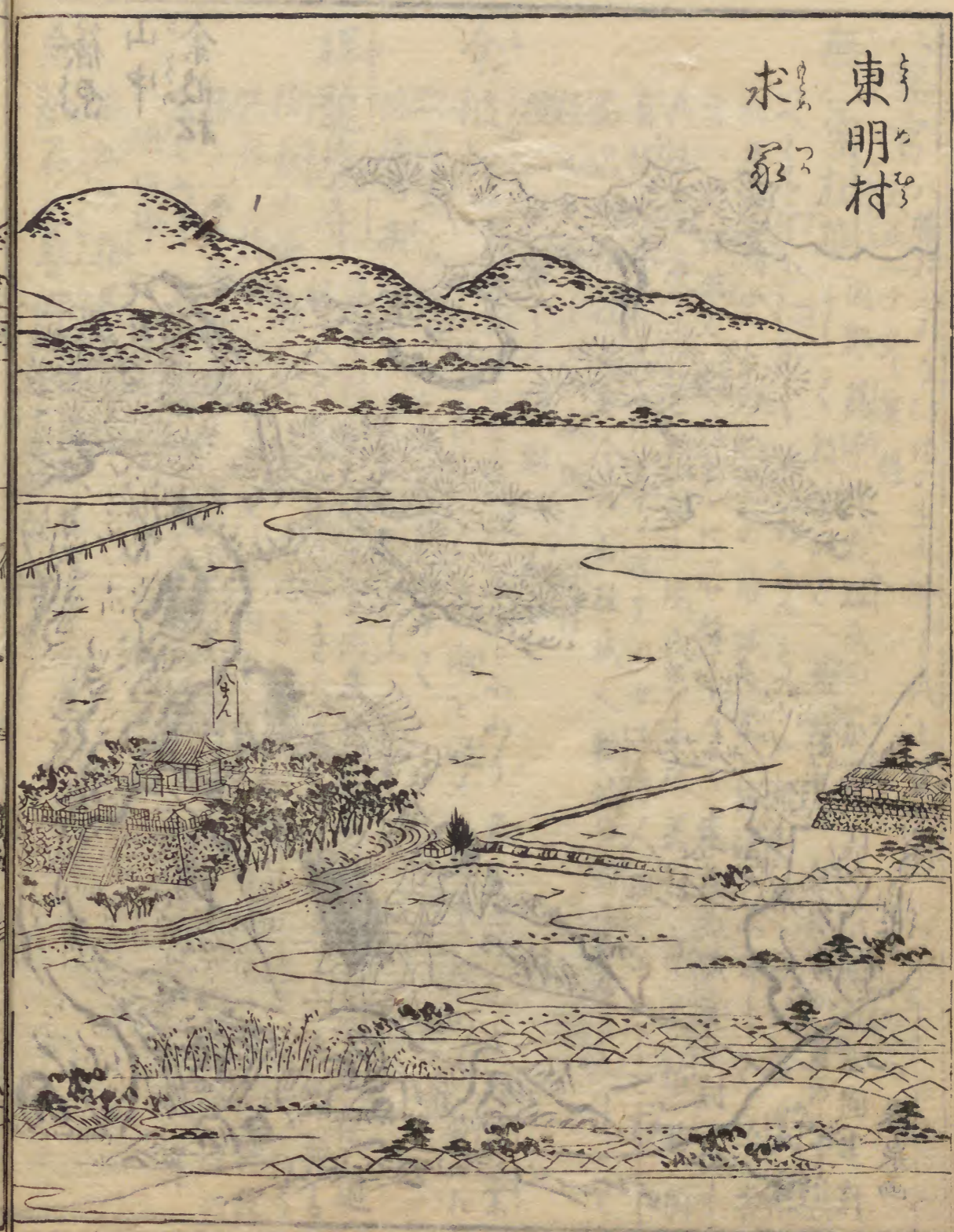
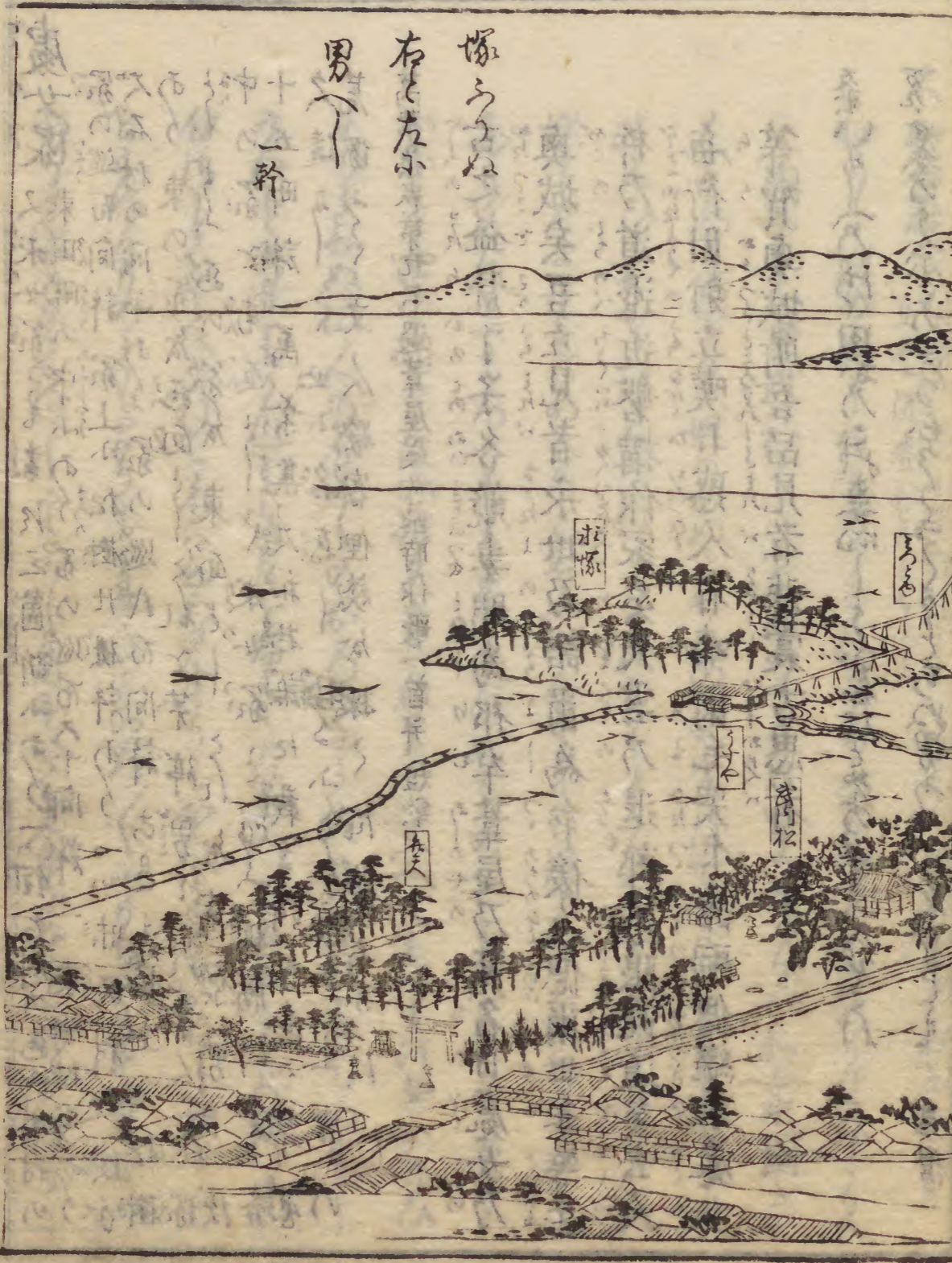
祥龍廢寺 藤原村小あり本寺地蔵菩薩といふ寺の陶基法道  
 防長の領主毛利候の山の方北塔提前と今に位牌あり  
 其外 將軍家ゆりの所寄附の寶器あり一年の大災に  
 罹り堂舎燬とあり今再建せし地は郡内の  
 真妙の猪色なり  
 自然石之尊佛 南に阿弥陀寺の墓所あり  
 行基の伝へし

山中  
 余波松



春泉画











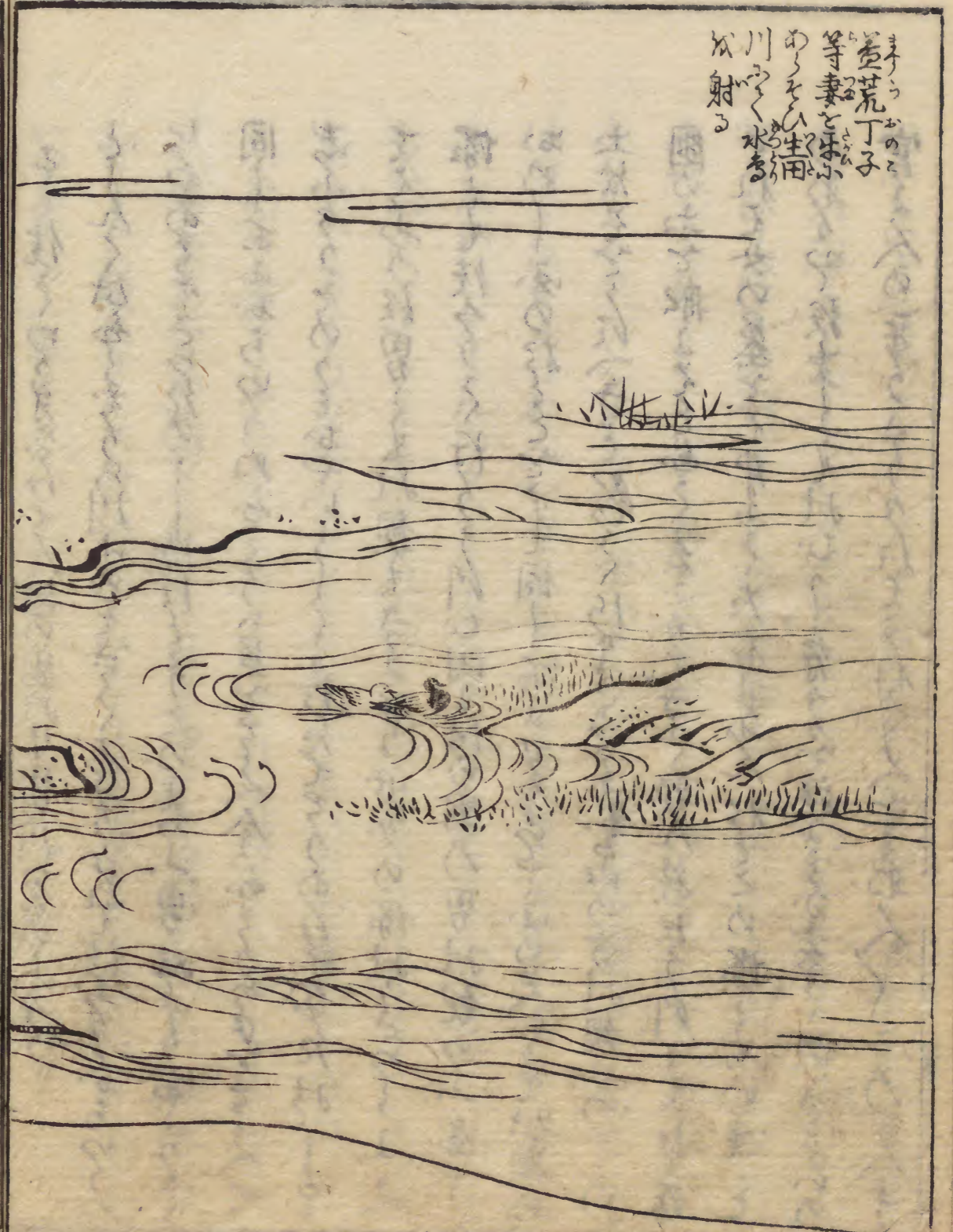






石田友汀画

まうがのこ  
 荒丁子  
 等妻と  
 のそと  
 川  
 射る















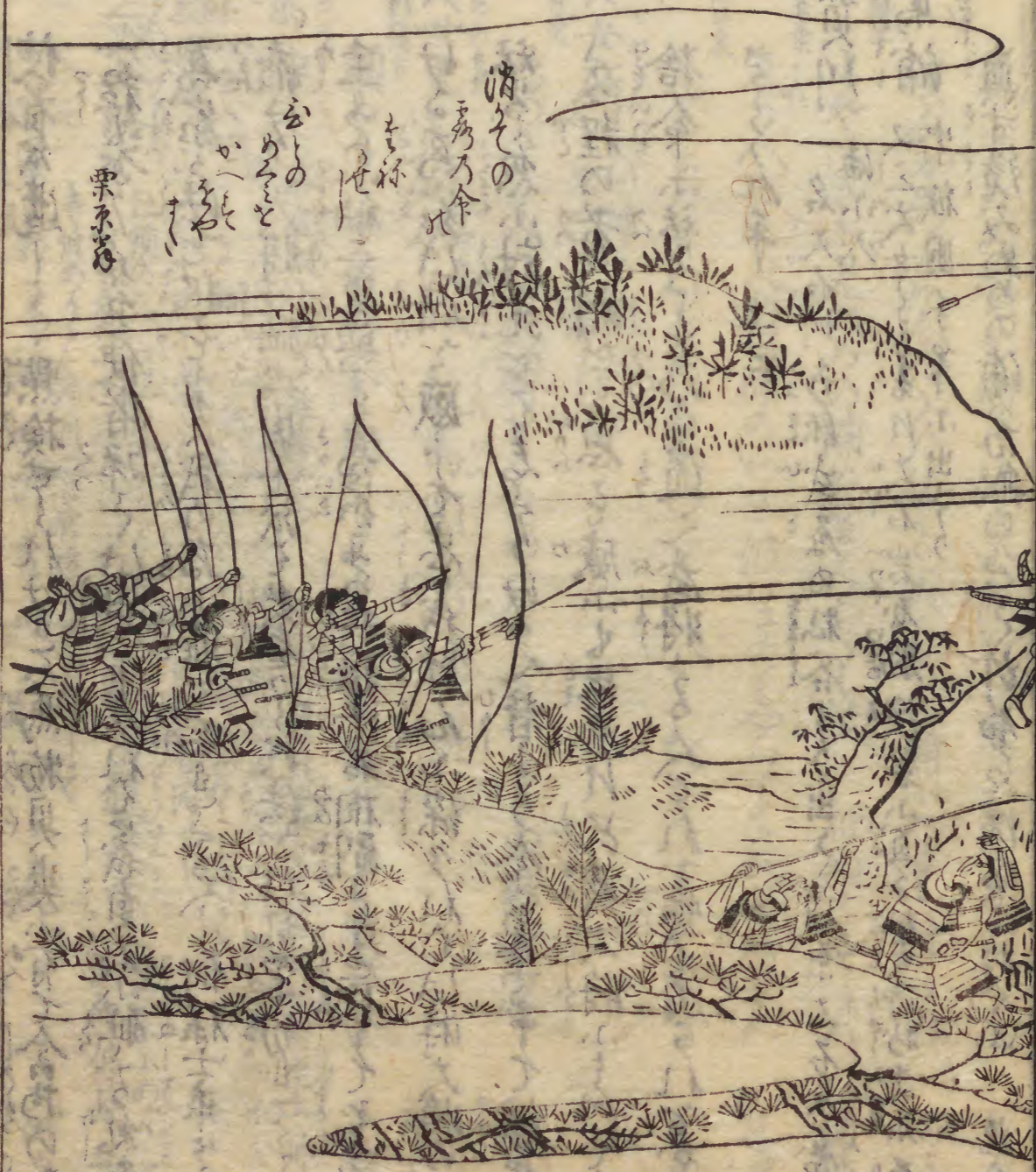


小山田太郎  
 おぼろしく主君  
 義貞の恩を  
 顧み義貞の  
 小我死に  
 身をおぼろしく  
 頼み忠告を  
 武士の人の  
 心を神も  
 ぞ候とて  
 の危



石田友汀画

消その  
 義乃命  
 志杯  
 志杯  
 りらと  
 か  
 栗不



栗不



使者不遣一々點檢せしれけし馬物具爽小有て合抄の致る  
 一粒もふりて使者帰しけ由とやそれと我貞人小解る氣色小て  
 高家法と犯と未の戦の爲小罪と忘しとるへ何様士乗先トて  
 疲らふ大將の胆也勇士氣と失るうは法とは乱事勿しとて田の  
 主より小袖二重與く高家より兵糧十石相副く色代とて帰れ  
 ける高家は情と感とて忠義疎ん小深多れをい時大將の命小  
 替り忽小討死とて志とりける昔より今小至るまで流石小侍  
 たる程の者小利とて思と感ふも恐とは只其大將小よりて身小  
 捨命小替るらるの道とて武將たる人それと慎んでこれとかとい  
 ざらん平云云

都賀川

一名大石川 亦係武庫の松谷より出く川原大石を流る

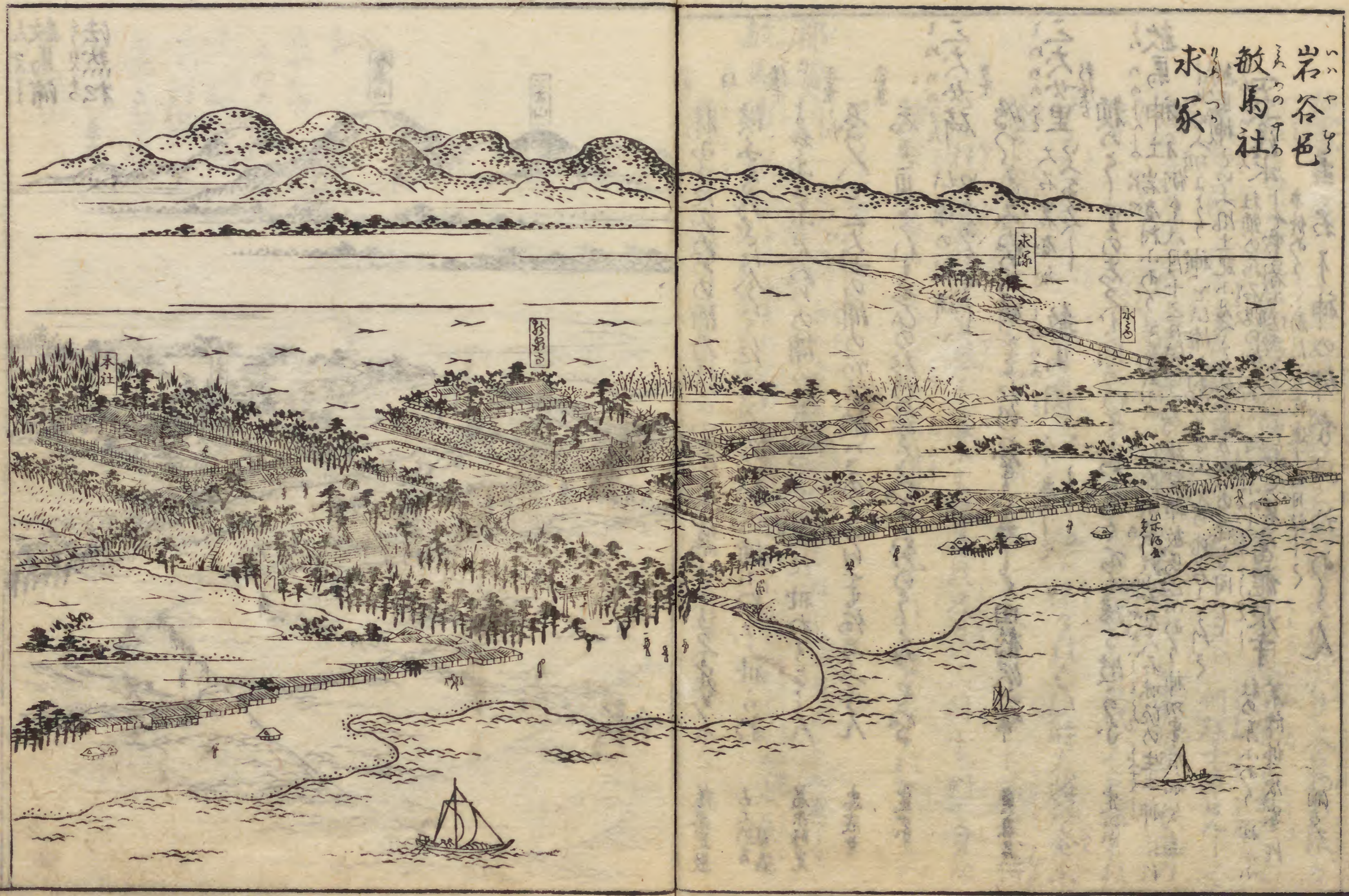
敏馬浦

又之大女とて若に大石岩を脇候多小直る八雲所抄ま本藤原  
 宗祇園を等小出たり

直守鏡みぬめの浦に船のこくりをた候あはれく小 福登

稀少とにみぬめの浦乃海士小船いさるやと小より定りん 義永定教  
 候子考むとに今よりた絶くみぬめの浦小わく神のわ お大納言  
 王葉 上を小ふんぬめの浦の蜚人やて徒に神ぬとらん 藤原師光  
 家集 受人と之大女の浦のやと彼にのまやけとも何あらん 忠成女  
 忘と貝それとあひたの絶く人ぬめのうみとせむ 定家  
 二大女碕 け浦の碕と 萬葉  
 二大女里 大石岩を介 敏馬園 今養一と 奥森呂  
 頼りく一里の志るも同のてぬめのを小解る彼のふ 定家  
 敏馬神社 岩を村小あり延喜式あり八郡郡小載に岩を大石味流の生土神とて  
 例東八月十二日神小祭原能勢郡敏馬と小あり神功皇后船を造る  
 敏馬神といふ風土記小あり仙見万葉の註も同ト  
 大女清水 社領の石碕の側小あり海冷小別當龍泉寺 社の東小あり禪宗  
 一七堂者小傍候あり一室あり 茶佛伝安代  
 本條ありく霜月二日宮遷一の日給りく  
 並 お子神のや春はわらん 湘夕





山崎  
山崎

岩谷邑  
敏馬社  
求家

本社

山崎

水源

水

山崎



敏馬浦  
法然松

摩耶山

二文山



美本  
波のつた  
みねの  
友多  
又きりく  
兼宗







摩耶山  
標石あり  
坂路十八所の  
間共所毎小  
帆と上  
柳あり  
摩耶  
あり



寺上天下利物山耶摩



○下谷  
七期  
り



二尾

○下谷  
七期  
り



佛母摩耶山切利天寺

上野村の上方あり古義直言宗城の山麓にあり

其通峰巒とく曲盤七折あり一徑蔚然として樹半腰小登れり  
額小至とを二王門あり内非の階七階有て百九拾八階あり  
傍院八字石階の左右ありく佛殿小至坊道年大野小  
羅く諸堂佛院二王門石階有

夫人堂 山上の南面あり侍云梁武帝の時女人羅敷の患小行く  
影形一軀を梁帝の皇城小蔵り一軀を弘法大師入唐の時あり

額 佛母摩耶山切利天寺と書け 観音堂 夫人堂の左あり法道  
又南浮檀金長三寸のる像を中蔵む毎年二月 阿比堂 夫人堂の  
初年月法會として遠近く群衆有

阿基法道仙人 奥院 夫人堂より九町許奥ありは祈り  
弘法大師の教と安け 女人羅敷神明 白山権現  
ある當山の鎮守と又稲荷祠 付寶都丸面 太史の家ありは

口の觀音堂の創あり 梅ありて當山小蔵む春日之面内く而金春太史あり一而ハ丹波  
夫當山ハ天竺法道仙人の創とる所ありは流花よりあり

海畔八里あり其峻嶽とくく衆とこれと仰く山頭小登きと

飄然とくく雲小御とくく遠く南嶺と望むとた(則漫々中)と

深形一真一方の名山之初法道仙人天竺聖山乃仏苑小在く

五百の持明仏と同じく梵行と修く各道果を獲て十方界小在ひ

人天と利益に當く紫雲小案として日域小外んく守り交那國小

至く西明寺の道宣律師小羯に律師昂爾浮檀金劫造の十二面

大悲の像長守ると法道小附與して曰ける像はむく釋尊四十

二葉の時あり瓜鏤るひ切利天の摩耶夫人小奉に佛泥洹の後小

逮て摩耶下界の衆生と利せんおふは像はむく阿那律尊者小

附與に厥后毛音毛頭といふ者ありく其像及び佛舍利經論と

持く來つては精舎小寄に法道遂これと推乃く當山小至り昂律利

と創し長き六寸十一面觀音を造く金像は自中蔵先あり

本殿小奉と故小稱て佛母摩耶山切利天寺といふ遠く大伽藍と成く

子院傍坊三百餘所とくは晨鐘昏鼓山川小響應一四果の黑白禮謁



とる半をめぐりし七寶小攝列の名刹は後世冠大少廢し今堂塔  
四區傍院八字あり山麓の神戸脇溪の海上より見るとを翠微乃  
中少巍然たる寶閣詳めし中華金山の海嶽樓小し方るまう  
とぞそのりる 餘ハ金剛峯寺心王院推久傍都微快の書せり  
當山本編紀ふくむ

摩耶古城

正慶二年赤松圓心少松六波羅勢九千餘騎同二月  
十一日摩耶城の南の麓末孫八幡林より七攻勢ける  
志入道謀み討つて散々七曲の嶮を所小帯た寄地  
一尾二尾より討つて散々六波羅勢八千人騎  
敗れ少松の城の麓より去取に向ふ時七子騎と向  
色一六波羅勢僅少騎少たすて引去りけり  
左平記ふ書り城係一尾二尾の今存り

天狗巖

藤原村の山中ありは地出遊りしと云ふ巖の  
河内國魂神社 藤原の生土神とて文明年中の社記あり

舟寺八幡

舟寺の傍の舟寺ありは舟の聲と帆をあけて彌を舟は  
舟寺の傍の舟寺ありは舟の聲と帆をあけて彌を舟は

末友大王祠

能治村ありは所の生土神とて文明の同記存り

法然松

脇溪の磯邊あり傳云美元年中法然上人瀨別より岸路  
遺傳の側植松のたあり政繁繁茂しく播磨の如し

阿弥陀寺

脇溪の村中あり我松と号し淨土宗  
法然上人岸路の側植松あり我松と号し淨土宗

天王塚

共小脇溪あり  
天王塚 和理塚 共小脇溪あり

名産灘酒

五百崎津田大石脇溪神等みく酒造り多く  
名産灘酒 五百崎津田大石脇溪神等みく酒造り多く

名産燈油

水碓とみくは製  
名産燈油 水碓とみくは製

生田二宮

生田村あり生田神齋神八本の其一  
生田二宮 生田村あり生田神齋神八本の其一

本社

八都郡生田あり  
本社 八都郡生田あり

以下

以下小見たり  
以下 以下小見たり

天王塚

和理塚 共小脇溪あり  
天王塚 和理塚 共小脇溪あり

名産灘酒

五百崎津田大石脇溪神等みく酒造り多く  
名産灘酒 五百崎津田大石脇溪神等みく酒造り多く

名産燈油

水碓とみくは製  
名産燈油 水碓とみくは製

生田二宮

生田村あり生田神齋神八本の其一  
生田二宮 生田村あり生田神齋神八本の其一

本社

八都郡生田あり  
本社 八都郡生田あり

以下

以下小見たり  
以下 以下小見たり

天王塚

和理塚 共小脇溪あり  
天王塚 和理塚 共小脇溪あり





瀧勝寺

砂山

山砂布

砂

砂寺

砂

砂



砂

砂

徳内村  
 名本あり  
 小本あり



布引の滝

布引の滝  
まうりくよんた  
徳吉  
山頂の  
炭の枝  
ひたうけ  
さうせ  
布や  
湯の白波  
佐瀬









其のわけいふ所のよりそのよのほつてをまふ布川の勝

我世はなつらむとまふまふのいふ所の勝といふまふけん

あはれはこすまふ  
わきまを人々をわくしをまふまふとちの社のせをまふ

やまのりなれはまふ人の人々まふとちやまふまふはまふまふまふまふまふ

山人のまふまふ白妙の月ふまふまふ布をたのまふまふ  
千載 後藤播磨

水の色はまふ白まふまふまふまふまふまふまふまふ  
六条左大臣

之方のまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
有家

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
隆季

布川の勝は白系まふまふまふまふまふまふまふ  
定家

仁安二の七月七日は國布引勝んまふまふまふまふまふ  
清盛入道深海とまふまふ

して平氏の人々まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

とまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

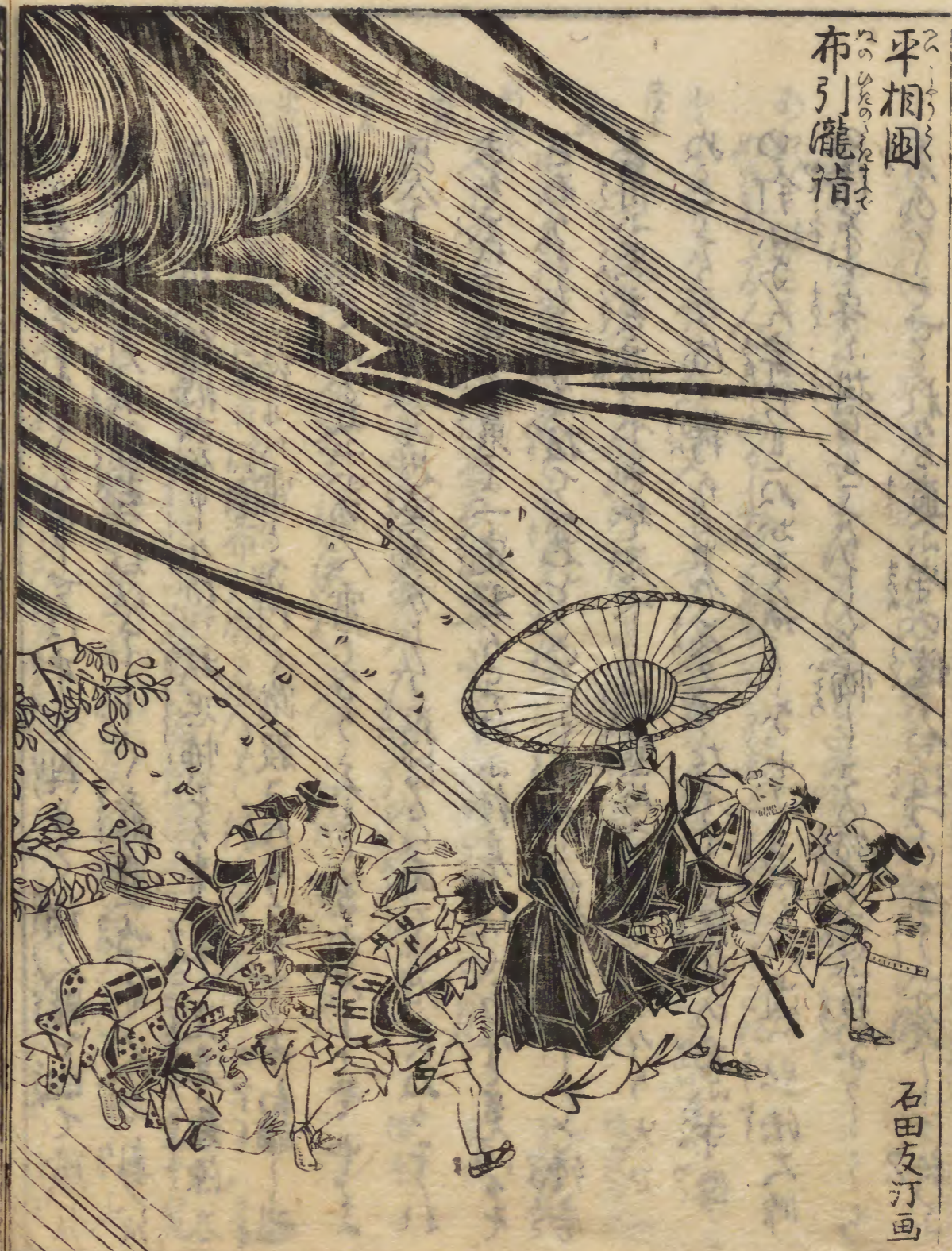
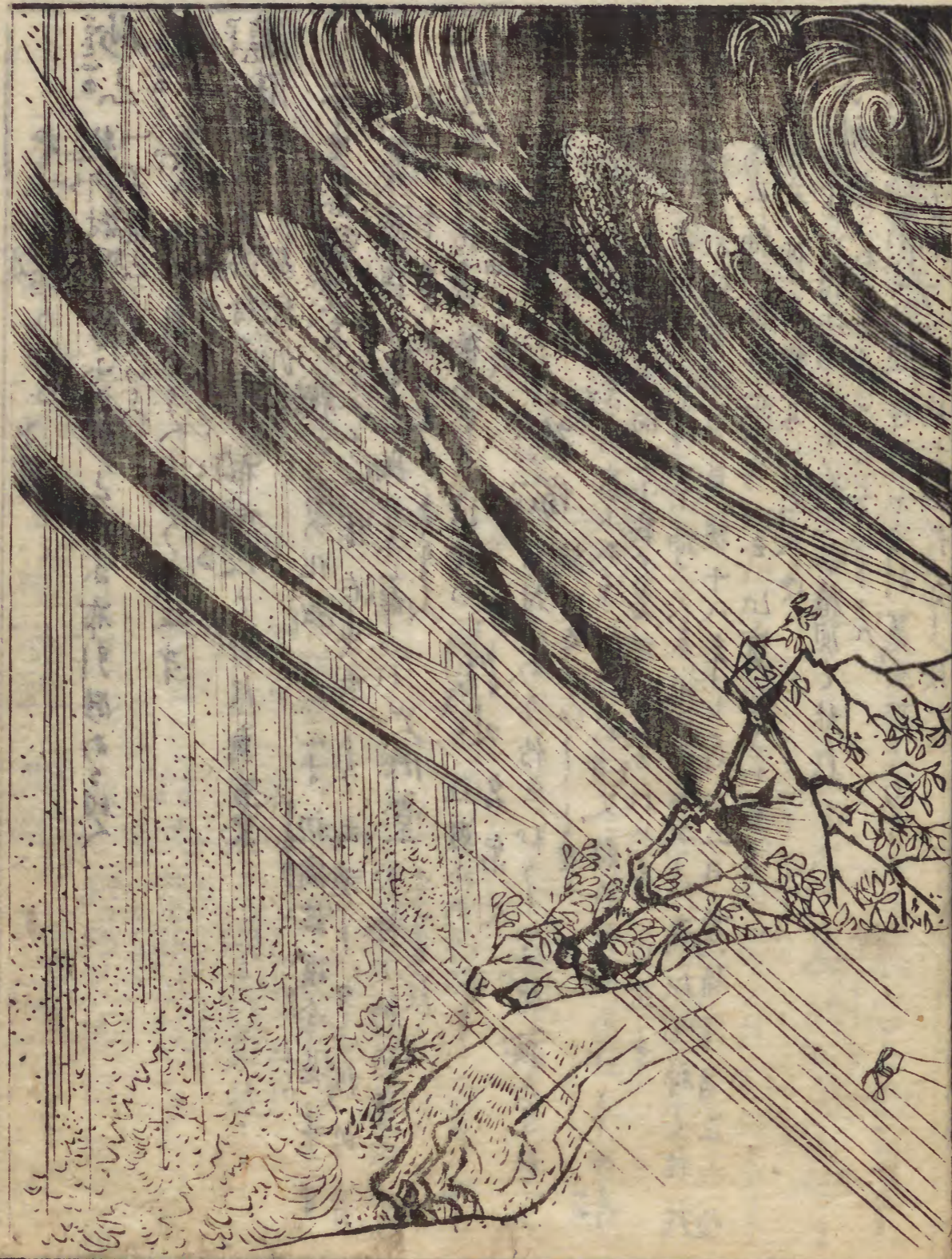
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ





平相園  
布引龍指

石田友汀画



をへそ昇りける下界

砂山 然内村の上方小ありと中ふ布引勝あり

瀧山古城 布引勝のうへ小ありと正中

瀧勝寺 終内村小あり 布曳と稱に真言宗

本号馬頭観音 役者名化長一尺二寸 初庵権金長 寺す

あね成感得しゆい胸中ふ籠られ 大昨堂 弘法大昨の像成

八幡祠 勝持寺の側小ありは地の 清水 社頭小あり

福井塚 終内村小あり 旗塚 旗を立ゆいしとを

終内牡丹 終内村醫生の家小あり初は高サ丈餘の牡丹ありし中今

高林神祠 原田村小あり 系神大系弟命之土人高松明神と称に

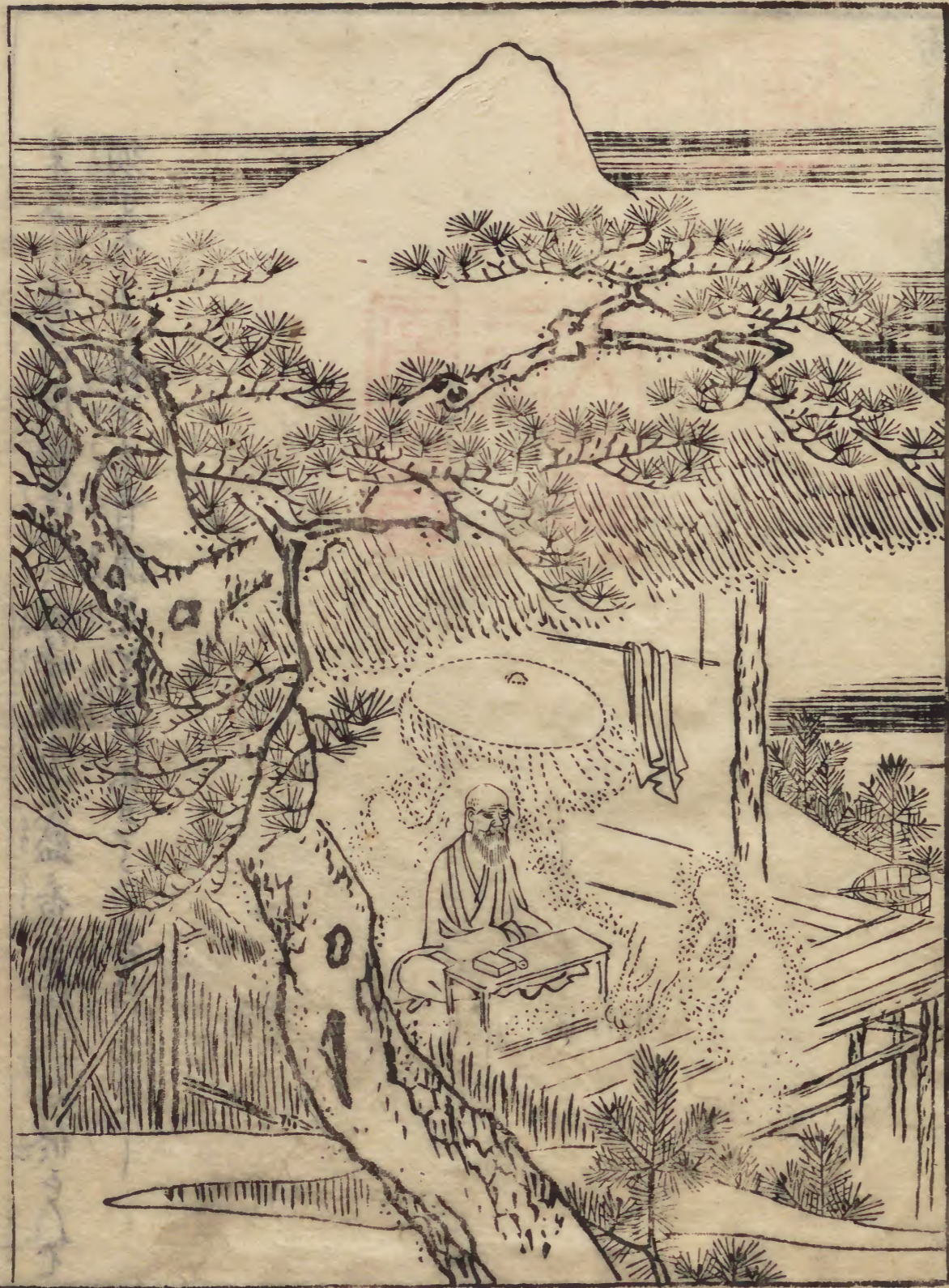
王子神祠 日村小あり土人王子権現と称に

釋慶日法師古蹟 釋書小攝別菟原郡とあり

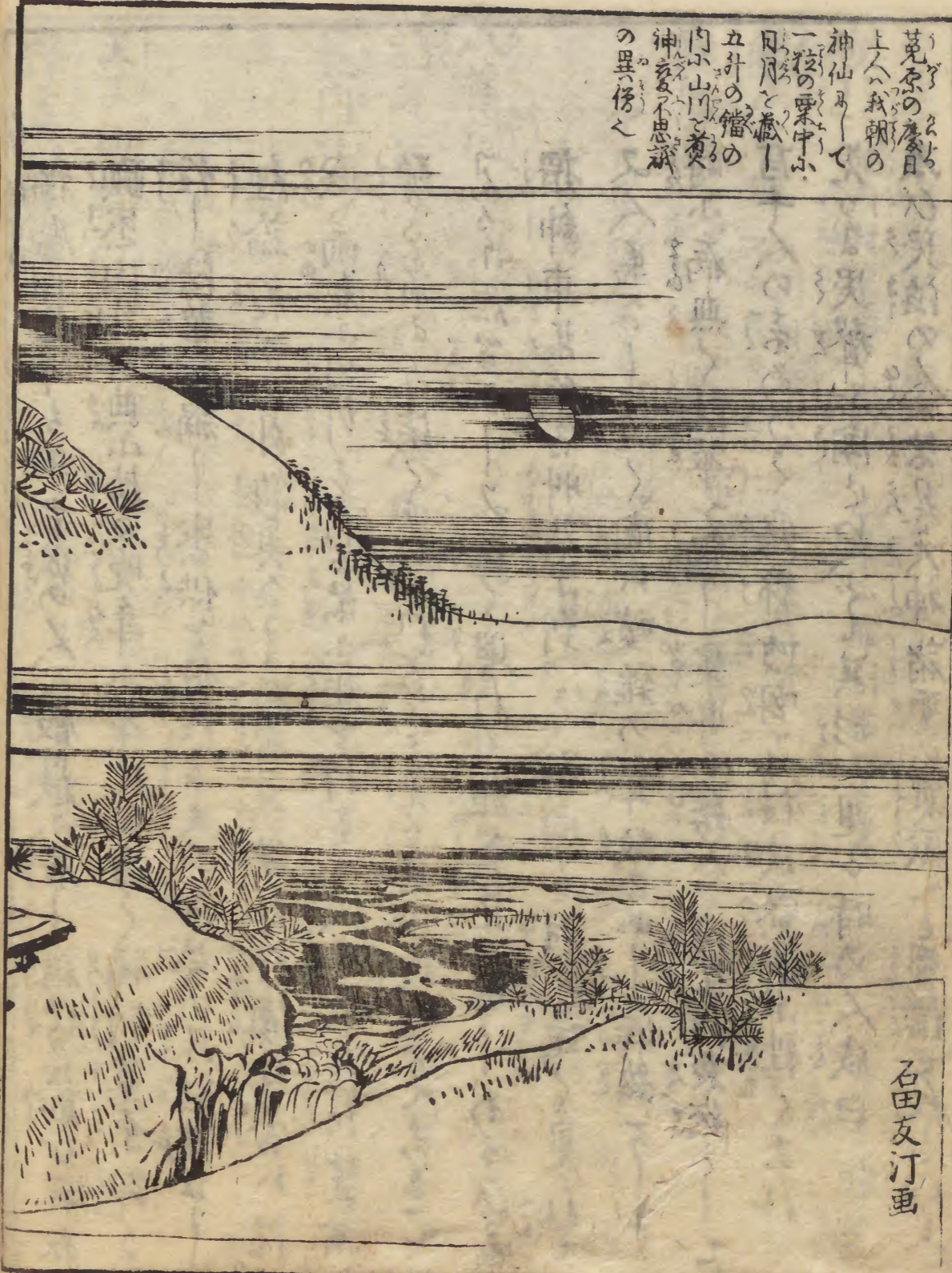
之寺釋書曰

釋慶日法師も平安城の人と敷嶽小居し講堂成勅に其外  
顯密内外の典小涉る晚年小本ふ成出く攝別菟原郡に  
住し法華を誦し密供を修け方丈の草菴の外別館を  
經論花畀の外餘具あり持齊成缺に押酒成含に  
或は雨衣小出りそれ小炬と持する人あり後に笠成  
警る者あり遠く人これと望み見る走り近つてあまを  
見る小炬望みし又遠く避れを炬笠成のぬしありひる  
摺紳車馬の客州菴小到つて駢圓を村人近く見れ  
又人馬あり遠く圍ひ喧雜の聲故のぬし溢然とて  
時小病無く法華を誦し定卯と繕んく遊去に忽然とて  
百千人の者あり悲聲啼咽を村民菴祈小往くまんと  
見ると哭聲を圍ひし其形を見む時の人咸曰炬笠  
及び哭泣の人皆是天神諸聖の眞感とて信せんとし





萬葉の  
 上人の  
 神仙の  
 一箇の  
 月影の  
 五升の  
 内山に  
 神を  
 の異

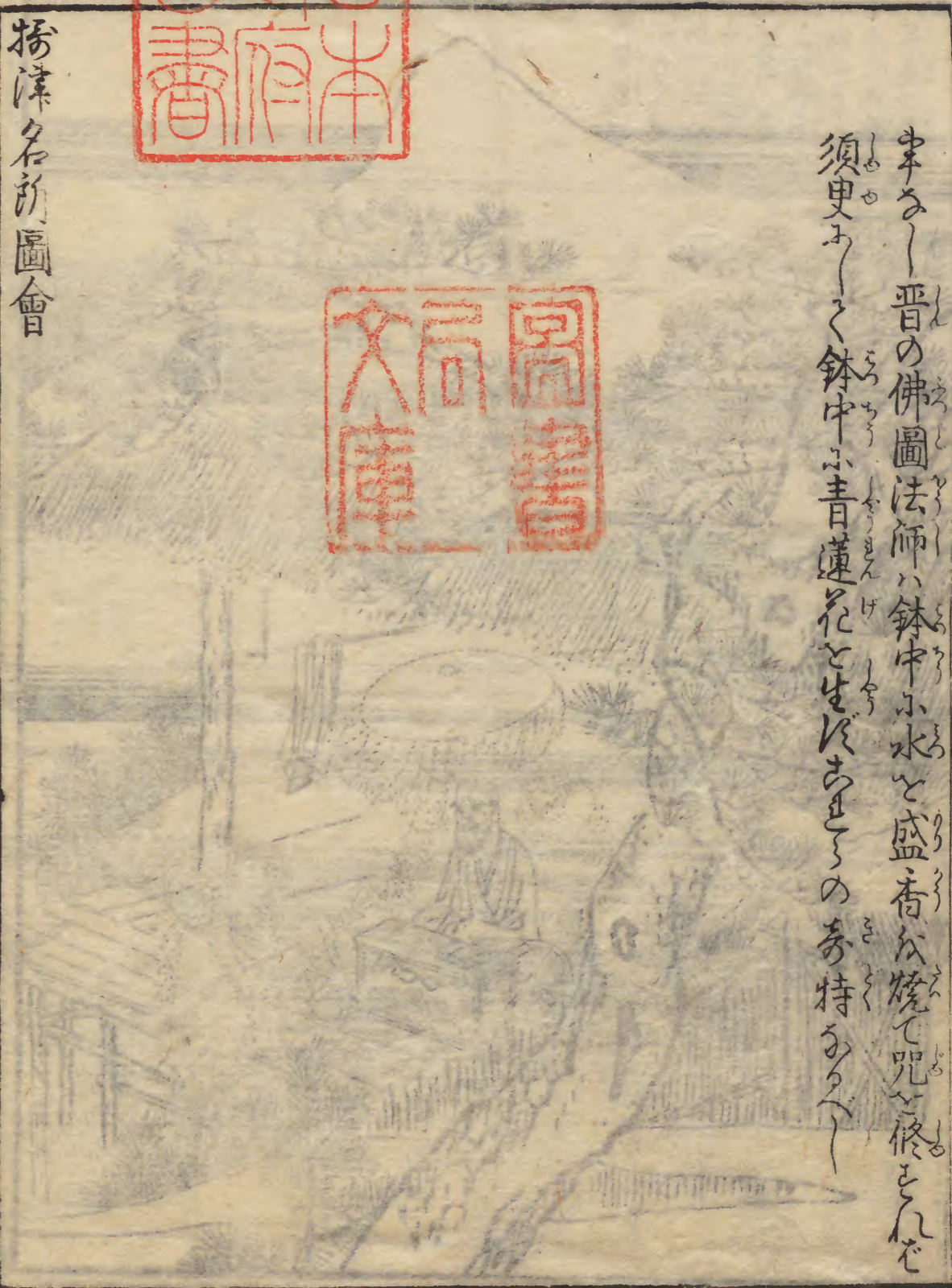


石田友汀画





揚津名所圖會



中まゝ一晋の佛圖法師ハ鉢中ハ水と盛香ハ燈で咒ハ終とんぞ  
須臾ハ一鉢中ハ青蓮花と生けあまの秀持あるべし



